

状 況 写 真

区 分	自 主
-----	-----

武 雄 営 林 署

( 様 式 6 )

小径木保残区域内プロット写真

プロット No. 1  
面積 0.01 HA



プロット No. 2  
面積 0.01 HA



# 状 況 写 真

区 分 自 主

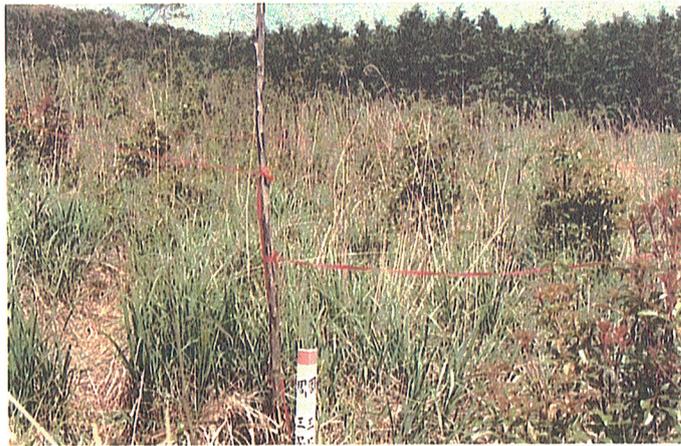
武 雄 営 林 署

( 様 式 6 )

## 皆伐区域内プロット写真

プロット No. 3

面積 0.01 HA



プロット No. 4

面積 0.01 HA



課題	広葉樹天然林の更新方法について		継続 新規	担当	造林課	開発所	武雄
目的	広葉樹天然林の低質広葉樹の伐採方法を究明し、林地の裸地化を防止し有用広葉樹の早期成林をはかり、天然更新技術の開発をはかる。		指示 (自主)				
			開発期間	昭和61年度 ~ 平成7年度			
年度別実施経過	2年度 実施報告	2年度 実施計画	備考 (評価及び普及計画等)				
	<p>1. プロット内林況調査</p> <p>(1) 保残木 樹種別本数樹高調査</p> <p>(2) 稚樹、ぼう芽発生調査</p> <p>(3) クズ発芽侵入調査</p>	<p>1. プロット内林況調査</p> <p>(1) 保残木 樹種別本数樹高調査</p> <p>(2) 稚樹、ぼう芽発生調査</p> <p>(3) クズ発芽侵入調査</p>					
	事業費 (技術開発) _____ 千円	事業費 (技術開発) _____ 千円					

# 試験経過記録

区分 | 自主

武雄 営林署

(様式4)

## 1. プロット内林況調査 (1) 保残木 樹種別 本数 樹高調査

プロット	樹種	胸高径 4cm以上				胸高径 4cm未満				備考
		本数	平均根元径 <small>cm</small>	平均胸高径 <small>cm</small>	平均樹高 <small>m</small>	本数	平均根元径 <small>cm</small>	平均胸高径 <small>cm</small>	平均樹高 <small>m</small>	
No.1	モチノキ	2	5.6 <sup>cm</sup>	4 <sup>cm</sup>	2 <sup>m</sup>	2	3.5 <sup>cm</sup>	3 <sup>cm</sup>	3 <sup>m</sup>	
	マブツバキ	5	5.1	4	5	4	3.2	3	3	
	サガンカ	1	4.8	4	4	12	3.1	2	2	
	ヒサカキ	2	5.3	5	5	3	3.3	3	2	
	シキミ					1	3.0	2	2	
	イヌガシ					1	2.0	1	1	
	計	10				23				
No.2	マブツバキ	4	6.1	5	5					
	サガンカ	2	5.2	4	5	9	2.4	2	2	
	シキミ					1	2.1	1	2	
	イヌガシ					1	2.3	1	1	
	計	6				11				

## (2) 稚樹・ぼう芽発生調査

表 I・II のとおり

## (3) クズ発芽侵入調査

発芽, 侵入なし

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
  2. 状況写真は別途整理する。

# 試験経過記録

区分 自主

武雄 営林署

(様式4)

## 表-I 稚樹発生調査表

プロット 樹種	No. 1			No. 2			No. 3			No. 4		
	本数 (本)	平均樹高 (cm)	相当本数 (本)									
タブノキ 有用樹計				1	30	100				4	55	400
イヌガヤ										2	65	200
エゴノキ	11	73	1,100	7	50	700						
カナクギノキ	2	55	200									
クロキ	1	160	100									
ヤブツバキ	3	63	300	2	85	200				2	65	200
その他	21	90	2,100	23	68	2,300	30	62	3,000	19	52	1,900
非有用樹種計	38		3,800	32		3,200	30		3,000	23		2,300
合計	38		3,800	33		3,300	30		3,000	27		2,700

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。  
2. 状況写真は別途整理する。

# 試験経過記録

区分 自主

武雄 営林署

(様式4)

## 表 - II ぼう芽発生調査表

樹種	No. 1			No. 2			No. 3			No. 4		
	本数 (本)	平均樹高 (cm)	相当本数 (本)									
アカガシ	18	173	1,800	5	172	500	14	193	1,400	20	144	2,000
シラカシ	9	142	900									
タブノキ	20	161	2,000	25	134	2,500	20	156	2,000	18	126	1,800
イタジイ							5	80	500	3	63	300
イスノキ										6	112	600
カエデ										8	129	800
有用樹計	47		4,700	30		3,000	39		3,900	55		5,500
ムスガシ	7	93	700	24	81	2,400				11	79	1,100
エゴノキ												
クロキ	3	83	300	2	135	200						
モチノキ	1	140	100							4	100	400
ヤブツバキ	3	97	300	8	118	800	6	88	600	14	112	1,400
ヤブニッケン	28	121	2,800	20	79	2,000	2	65	200	19	65	1,900
その他	39	111	3,900	62	98	6,200	123	98	12,300	91	79	9,100
非有用樹計	81		8,100	116		11,600	131		13,100	139		13,900
計	128		12,800	146		14,600	170		17,000	194		19,400

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。  
2. 状況写真は別途整理する。

# 試験経過記録

区分 自主

武雄 営林署

(様式4)

## 2 考察

当該箇所は、搬出完了後4年経過している。前回調査時点同様、草本類（アオモジ、クマイチゴ、特にススキ等）の侵入が多く、このため被圧による椎樹の枯損が見られた。小径木保残木についても枯損、半枯損が見られるが、これは、伐採前は、下層木であったものが上層木の伐採による環境の変化に対応できなくなったためと思われる。しかし、半枯損木については、芽が見られるのは早期成木の期待が見込める。

現況は、椎樹発生については小径木保残カ所についてやや多く見られたが、ほう芽発生については、皆伐カ所において多く発生している。今後、椎樹の刈出し等を実施し、引続き比較検討を要する。

状 况 写 真

区分 自主

武 雄 营 林 署

( 様 式 6 )

小径木保残区域

面積 0.25 HA



皆伐区域

面積 0.25 HA

